

## 編集 後記

11月は肌寒いですが、紅葉の景色が広がり、食べ物も美味しく、研究者にとっては研究意欲が高まる季節でしょうか。

第71巻11号では、論壇1報、原著2報、資料3報が掲載されています。論壇の報告では、HPVワクチンの健康者接種バイアスについてデータを基に検証されています。ワクチンの有効性を評価する際に重要な視点を提起されています。

松尾らの原著は、保健師へのインタビューから、産婦健康診査で要支援対象者となった母親への支援方法を検討しています。こうした質的研究から、個々の経験が共有化され、批判的な検討を重ねながら支援方法が集積・標準化されていくことは、普遍的な支援を行う上で重要だと思います。

緒方らの原著は、1歳6か月児を持つ母親の経済的不安感と、母親の主観的健康感や身体的疲労感との関連を分析しています。3か月児健診と1歳6か月児健診の同時期ともに経済的不安がある者は、両時期に経済的に不安が無い者に比べ、主観的健康感や疲労感が高く、経済的な基盤の重要性が示唆されています。

河合らの資料論文は、介護予防リーダー養成講座受講者で、概ね10年間活動している者を対象に、活動の役割や気持ちの変化の過程を聴取しています。10年間という長期間活動してきた方の活動内容や意欲の保ち方が共有されることは関係者にとって重要であり、参加者や環境の変化に対応する姿勢の重要性が示されています。

笠巻らの資料論文は、女子大学生の食行動・食品群別摂取状況が、食習慣変容ステージ別に変化するのかを、1年間の縦断調査から分析しています。ステージ別の変化は興味深く、食習慣が上位の者が下位に逆戻りするケースが一定割合あることも実態をよく捉えていると思われま。

西岡らの資料論文は、生活保護受給者への架電による健診の受診勧奨効果について分析されています。残念ながら、期待された受診勧奨効果は全体的には得られなかったものの、対象者を限定（50歳代、就労収入無、過去の健診未受診者）し、年度末等の期限に近い時期に実施すれば効果があがる可能性が報告されています。

本号では、量的研究4報、質的研究2報が掲載されており、論文の種類もさまざまでした。公衆衛生の研究領域は幅広く、研究方法も多様だと実感させられます。今後も皆様の多彩な取組を投稿していただけるよう、心よりお願い申し上げます。  
(古城隆雄)

## 次号予告 (第71巻・第12号)

### 原 著

大腸がんの対策型検診受診率および新規がん発見指標と市区町村保健師数との関連に関する生態学的研究……………平田浩二, 他  
保健師のコアバリューとコアコンピテンシー：デルファイ調査……………岡本玲子, 他  
喫煙者における文字のみおよび画像付きタバコパッケージの警告表示への認識に関する横断分析……………岩瀬絵里奈, 他  
高齢者における新型コロナウイルス感染症拡大による生活の各種変化と睡眠時間の変化との関連：横断研究……………山田秀彦, 他

### 公衆衛生活動報告

国際空港を管轄する保健所が新型コロナウイルス感染症オミクロン変異株発生時の水際対策強化で受けた影響の分析……………関なおみ, 他